

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム さくら亭 (八重)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390300192		
法人名	社会福祉法人 成仁会		
事業所名	グループホーム さくら亭 (八重)		
所在地	〒022-0003 岩手県大船渡市盛町字町3-8		
自己評価作成日	令和7年9月16日	評価結果市町村受理日	令和7年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念  
 1、私たちは、入居者に優しく、人としての尊厳を守り、大切にします  
 2、私たちは、自分や家族、地域みんなが入りたいと思うような施設にします  
 3、私たちは地域に根差し、地域福祉の拠点となり、地域に愛される施設にします  
 さくら亭ではユニットケアの考えを基本に、家庭的で落ち着いた環境を整え、個性や意思を尊重し、その方を全人的にみつけ個別的なパーソナルケアを実践しています。  
 今年度のテーマを「一期一会 ラストステージを共に」とし、「入居」というきっかけを出逢いとし、二度と戻らないその一瞬一瞬を大切に寄り添い・慈しみ・分かち合い、一生涯のラストステージのアルバムに刻んでいただけるようなケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目の事業所であり、「さくら亭」の名称にふさわしく柔らかい桜色や桜模様が施設内の随所に施され、明るく心地よい造りとなっている。利用者は自室に友人を招くなど自由度が高く、「我が家」のように過ごすことができている。各職員は自立支援の視点で支援を行っており、自宅ではしていなかった調理に参加したり、排泄の状況が改善して来たりと、家族も驚くような変化もみられている。商店街の中に立地しており、隣接する二つの事業所と連携しながら地域との交流活動を積極的に行っている。特に地元の小学校との交流は意義深く、利用者との交流を通じて子ども達の認知症への理解が得られてきている。また、今春の山火事災害の際には法人全体として支援活動に取り組み、消防関係者へのおにぎりの炊き出しや女子中高生へのシャワー室の提供などで尽力したことは、とりわけ評価できる。「尊厳を守る」「みんなが入りたい施設」「地域福祉の拠点となる」という理念を、職員による日々の生活支援を通して実践している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年10月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら亭 (八重)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を玄関、各ユニットに掲示している。毎朝の朝礼で理念の唱和を行い意識づけを行うとともに、理念に基づいた対応を心掛けている。	隣接する「蔵ハウス」、「まちぐるみ」と共通の法人理念と施設理念を掲げ、毎日の朝礼で職員全員で唱和して浸透を図っている。「自分や家族、地域のみんなが入りたいと思うような施設」とする理念のとおり、自分の親を入居させている職員が複数いる。また、「地域に根ざし地域福祉の拠点となる」と理念に謳い、様々な地域交流活動も実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	こども園、小学校との交流があり、節分、クリスマスなどのイベントや、商店街と中心として行われる小学校のマラソン大会ではメイン会場として提供。毎年商店街では七夕まつりが開催され、道中踊りには利用者、職員で参加した。	今年は地元の盛小学校4年生が来所して施設見学と認知症の学習や利用者との交流を行ったほか、10月には小学校のマラソン大会のメイン会場となった。中学の吹奏楽部や高校の太鼓部なども受け入れ、商店街全体として取り組んだこともあり、盛会であった。今春の山火事災害の際には、法人全体としておにぎりの炊き出しを行って消防関係者に提供するなど、関係者からは大変感謝されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	小学校の総合学習の場として認知症の人の生活を伝える機会があった。運動会、夏祭りなどのイベント時には地域の老人クラブ、ソロプチミストなどの参加があり、施設を知る機会ができた。山林火災の際は避難者向けの相談支援を行い、事業所の浴室を解放した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1度開催。参集での開催ができています。市の長寿社会課、商店街の会長、民生委員、家族代表に委員として参加、オブザーバーに学童保育の代表に参加をお願いしている。利用者の状況を写真付き資料で報告している。外国人スタッフへの助言などもいただき、サービスの向上につながるよう努めている。	運営推進会議の委員には、民生委員や商店街代表、家族代表らが参加している。民生委員は消防長の経験者でもあり災害対応にも詳しく、全体としてバランス良い構成となっている。会議においては、山火事災害時の地域貢献や外国人職員の状況、外出支援の内容など、活発に意見交換が行われている。高齢者施設での事件発生の報道を受け、警察関係者を招いて防犯について協議することを検討している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら亭 (八重)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	福祉用具貸与で受けられない車いすを、市の補装具支給制度を利用し支給につなげることができた。また、市の事業者連絡会に参加し状況報告を行っている。	運営推進会議には市役所課長が毎回参加しており、ホームの運営状況は良く理解していただいている。市主催の地域ケア会議にも毎回出席し、他の事業所との連携や交流を進めている。会議では、春の山林火災の話題が多く、防災や災害対応の面で有益な情報を得ている。また、福祉用具の相談を通して、市の介護担当課のみならず障害福祉担当課とも連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設の地域密着型特養、グループホームと3事業所共同で委員会及び研修会を実施している。普段の生活の声掛けによる「スピーチロック」はスタッフ同士日ごろから注意し合っている。玄関は防犯のため22時～6時のみ施錠を行っている。	法人傘下の事業所合同で身体拘束適正化委員会を年4回開催しており、法人マニュアルの確認と事例検討などを実施するほか、研修も行っている。事業所として「スピーチロック」の防止に特に留意しており、「入居者に優しく、人としての尊厳を守る」の理念を念頭に、声掛けでは「言い方」や「声のトーン」によって伝わり方が違うことなどを常に確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設理念の「尊厳の保持」と密接な関係事項のため、管理者が常に注意を払っている。研修会は前項同様3施設合同で研修会を行い、事例を交えながら研修に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在制度を利用している利用者は居ないが、利用に備え、円滑な支援ができるよう、機会があれば研修会への参加、また情報収集を行っている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム さくら亭 (八重)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時など説明の場面では、わかりやすい説明を心掛け、不安や疑問点がないか随時、確認しながら進めている。重度化した場合などの生活や退居に関しても、サービス終了が支援終了ではないことを伝え、いつでも相談していただけるよう声掛けをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者との懇談会を毎月開催し、行事の感想や、暮らしにおける意見や、要望を伺っている。また、日常会話などからも希望を聞きながら、希望や要望ととらえ対応に努めている。ご家族とは面会時や電話連絡、受診の付き添い時などの機会に意見をお伺いしている。	利用者との懇談会を毎月開催し、前月の行事の感想や今月のお知らせなどについて意見や要望を伺う機会としている。食べ物や外出についての要望が多く、支援に活かしている。家族代表が運営推進会議に参加しているほか、家族にはSNSで行事の写真等を送って喜ばれ、面会の際などに感謝する声が多く聞こえる。	家族からの意見や要望の聴取により、施設の運営にヒントになる事柄が寄せられる可能性があります。そこで匿名の家族アンケートも有効な手段と思われることから、最も相応しいと思われる方法について、実施に向けた検討を進められることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月3事業所合同での職員会議を開催しており、行事、イベントの内容確認、業務内容の改善などの提案を行っている。管理者⇄職員の意見交換を行っている。	毎月開催されるユニット会議等において、例えば食器の置き場所や掃除の仕方、トイレ誘導の仕方などについて、職員から意見や提案が出され改善につなげている。また、法人全体としての業務改善委員会が設置されており、事業所と本部が連携して運営改善に取り組んでいる。管理者と職員との個人面談は、年1回実施され、丁寧な意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得や外部研修の案内をしており、取得の状況に応じて給与や賞与の支給額に反映される仕組みになっている。法人が認めたものは業務免除で参加など負担の軽減を図っている。希望公休を配慮することで、プライベートの時間を充実できるよう目指している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら亭 (八重)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	認知症介護基礎講座、認知症実践者研修への参加、経験に応じ、介護福祉士、介護支援専門員、認知症実践リーダー研修に参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今年度より3事業所合同の研修を行うなど交流を密に行っている。また、必要に応じて外部での研修などでネットワークづくりを行い、情報交換を行いながら取り入れることのできるような情報を共有しサービスの向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、ご家族、担当ケアマネ、事業所、病院の担当者などから得た情報をもとに、本人との面談を行い実態調査を行っている。暮らしの継続を意識しているが、新たな生活がスタートする本人の不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ユニットケアを説明するうえで、利用者が一律な生活を送るのではなく、個々の状態に合わせて柔軟な対応をすることをお伝えし、施設での暮らしでのニーズを把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームでの生活のイメージを説明しながら、本人と家族の希望、要望を伺い、入居後の暮らしの目標を設定し介護計画を作成する。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら亭 (八重)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者一人ひとりの「出来ること」「支援の必要なこと」を把握し、食事作り、居室の掃除、洗濯などの家事への参加につなげている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	広報や、ホームページより暮らしの様子を伝えている。本人の誕生日には家族の協力をいただき、誕生会でプレゼントを渡したり、母の日、父の日にもメッセージカードをいただくなど支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の通っていた喫茶店や、美容室に行くなどの外出や、併設施設の知人、友人がおりいつでも交流できるよう支援している。また、携帯電話を所持している方も多く、電話を掛けている様子が見られる。行事や、日常生活の写真を管理者からSNSで家族に送っている。	入居前からの交友関係や馴染みの場所など、利用者の状況を丁寧に把握し、馴染みの人などの関係が途切れないよう支援している。行きつけの美容院や喫茶店、キリスト教会などに、家族や職員の協力を得ながら出かけている方もいる。同級生や近所の友人が訪ねて来る方も多く、居室でゆっくり過ごしていただいている。また、彼岸の頃には、バスハイクでお寺参りをすることも大きな楽しみの一つとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士のお人柄や関係性を把握し、食事の席などの配置を配慮している。耳が遠いなどコミュニケーションを円滑に行うため職員が間に入りサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居時が支援の終了ではなく、次のサービス、関係部署など、生活がスムーズに移行できるよう配慮し連携に努めている。移動後も「困ったことがあれば相談を」と声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの会話の中から、思いや意向を把握し、ケアに取り入れられるよう努めている。表現が難しい方には家族とのコミュニケーションを通じて意向を伺い、役割づくりへとつなげている。	思いや意向の把握のために、若い頃の仕事や暮らしぶり、入居前の日常生活の様子などを本人や家族から聞き取り、パーソナルケアに生かしている。女性では手芸や歌、踊り、調理などを楽しみにしたり、男性では大工の経験を活かしてDIYが得意という方もいて、生き活きと取り組んでいる。言葉で話せない利用者については、様々な事に取り組んでみる中で様子を見ながら思いを把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の実態調査や、担当ケアマネ等により情報収集を行い、生活環境の把握に努めている。施設での生活に活かせるような家具なども家族と協力し、選定している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	実態調査と、入居後の暮らしの様子を見ながら生活のリズムを把握し24時間シートを作成し、利用者個々の一日の過ごし方を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、計画作成担当者が原案を作成し、職員参加のカンファレンスにおいて検討。本人、家族の意見を聞き取りし反映させている。プランの見直しは3か月毎を基本とし、モニタリングは毎月の職員会議で行っている。	入居に際しては本人や家族等から意見や情報を聴取してアセスメントを行い、その人らしい生活を支援していくため、計画作成担当者が介護計画を作成している。毎月のユニット会議で各利用者のモニタリングを行い、計画は概ね3か月毎に見直しを行っている。家族からは健康維持や運動、活動などの要望が出されることが多く、可能な限り計画に盛り込んで支援している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら亭 (八重)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録システムを使用し生活記録の入力を実施。他に対応などの情報共有を図ることは申し送りノートを使用し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	市の補装具支給制度の利用や、排せつ用品の購入には他の事業所と連携し費用負担を抑えるなどの案内を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	市の移動図書館、ヤクルトの訪問販売、美容室の訪問を受けて散髪、家族ボランティアによる音楽セッションなどを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、家族の希望を考慮し、入居後も在宅時のかかりつけ医に通院されている方、入居を機に法人の嘱託医に変更する方など、ご本人、家族の希望に配慮している。専門性を必要とする疾患に関しては必要時、紹介状などでの情報共有に努めながら対応している。	大半の利用者が、事業所の協力医療機関でもある町内の山崎医院をかかりつけ医として受診を継続している。同医院は法人の系列病院でもあり、夜間診療にも対応してくれて融通が利き、職員や家族にとって相談しやすい関係が築かれている。事業所には看護師も在籍しており、健康管理や体調管理の面で安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師資格の職員が1名おり、日常の関わりで体調の変化や気づきについて情報共有、相談できる環境である。 利用者の適切な受診や処置などを速やかに受けられるよう助言を受けながら対応している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら亭 (八重)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状に適切な受診時期や方法を判断し、主治医、家族との連携を図りながら対応している。家族が遠方で駆け付けられない時は、入院の準備、手続き、情報提供を行い、退院時も医療機関の相談員・看護師と連携を図り、安心して迎えられる状況を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際に、家族様に対して説明を行っている。利用者の状態変化が見られた場合はその都度家族への説明、意向確認を行いながら、施設での看取り、医療機関への入院や特養への住み替えなどの対応を行っている。	入居に際しては、本人や家族に対して看取りまで対応可能であることや、重度化した場合には特養などへの住替えもできることを説明し、了解を得ている。開設2年目の現在は、まだ看取りは無く特養への住み替えが1例だけである。法人内に特養がある優位性があるとともに、看取りの場合でも、かかりつけ医の協力が得られる見込みがあり、看取りの対応は可能な環境にある。職員も「住み慣れた場所で最期までお世話したい」としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所内の年間計画で急変時対応について研修会を開催し受講している。ユニット内には「急変又は介護事故対応マニュアル」のフローを張り出し発生時に慌てず対応できるよう役立っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月、様々な災害を想定(火災、地震津波、水害)した防災訓練を実施している。利用者の行動能力や、理解度を考慮し対応できるよう努めている。	市のハザードマップでは、津波と盛川氾濫による浸水想定区域に立地しており、浸水が予想される場合には、隣接の系列施設の2階部分に垂直避難するとしている。年度当初の設備点検や、年1回の夜間想定訓練など様々な避難訓練を毎月行っている。夜間は事業所の2人に加え、隣接施設からの応援職員も見込め心強い。訓練を重ね、利用者の動きもスムーズになりつつある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者が不快な思いをしないように言葉遣いや対応に気を付けている。認知症の進行に伴い、会話がかみ合わないことも多いが、利用者の生活背景を理解し対応している。 日常生活では食事、排泄、入浴などご本人の意思を尊重し、希望に合わせた介助を行っている。	排泄や入浴の場面など、特に利用者の人格の尊重に配慮を要する場面では、利用者個々の状況に応じた声掛けや誘導方法を工夫している。利用者への声掛けは「さん」付けを基本とし、丁寧な言葉遣いを心掛けている。中には現役時代の役職名で「先生」と呼ばれるのを好む方もおり、一人ひとりの生活歴やプライドなどを考慮した対応としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が日常生活の中で思いや希望を訴えやすくするため、場所、時間帯など考慮している。また、訴えに対して否定せず希望を受け入れられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースや好みそうな活動を提案し(歌、カラオケ、塗り絵、テレビ鑑賞、計算ドリルなど)無理強いせず支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月、美容室の訪問があり、散髪されている。希望に応じて行きつけの美容室を利用する方もいる。普段から、化粧する方もおり、行事の際はネイルなど利用者の好みに合わせた支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の協力を得ながら準備、配膳、後片付けを行っている。嗜好調査を行いながら、好みのメニューを提供したり、ご当地メニューや季節感の感じられるメニューなども取り入れ工夫している。誕生日には本人の希望するメニューを提供している。	献立や調理は職員が行っており、栄養バランスなどは隣接の特養の栄養士がチェックしている。年1回利用者の嗜好内容を調べ、なるべく嗜好に沿った食事の提供を心掛けている。家族や近所から野菜や魚類などの差し入れも多くあり、食材に活用している。調理が得意な利用者がスタッフを手伝うこともあり、多くの方が配膳や片付けなどを手伝っている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら亭 (八重)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の嗜好や、咀嚼、嚥下状態に合わせた食事が提供できるように情報共有しながら支援を行っている。水分補給も定期的な時間を設け、気温や、入浴後など十分摂取できるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声掛けをし歯磨きやうがいを行っている。義歯の管理が難しい方は職員が対応している。口腔内に不具合があれば、協力歯科医と連携を図っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレでの排泄ができていないが、見守り・介助が必要な方は排泄パターンをつかみ、定時・随時で誘導を行っている。	利用者の約3割はリハビリパンツを使用し、7割近くの方が居室内のトイレで自立した排泄ができています。排泄チェック表を活用して、見守りや介助が必要な方には様子を見ながら声掛けや誘導を行っている。便秘予防として1日1,500ccの水分摂取を目安とし、自然な排便を支援している。排泄支援の効果もあり、入居時と比較して改善が見られる方が多くなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、牛乳や乳製品の提供を行い、食物繊維の多い野菜類の摂取を促したり、腹部マッサージを行っている。自然排便が困難な方は主治医と連携し服薬調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にあった支援をしている。	入浴は個浴とリフト浴が対応可能な状況である。週二回ペースで主に午後に入浴としており、アロマ入浴剤を使用し、リラックス効果を図っている。利用者の希望に沿って曜日変更やプライバシーに配慮し同性介助に対応している。	一般浴とリフト浴ができる浴槽を備えており、多くの利用者の入浴は一般浴となっている。入浴を好まない利用者もあり、いろいろ工夫して誘導している。アロマ入浴剤などを活用し、リラックスして職員との会話を楽しまれている。異性介助を嫌う方の希望にも対応している。菖蒲湯やゆず湯などの季節感を楽しむ取り組みも検討している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら亭 (八重)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者一人ひとりの生活習慣や、体調に考慮しながら、居室での休息の声掛けを行っている。夕食後もリビングで過ごす方、居室でテレビを見る方、ラジオを聞いて過ごす方と思い思いに過ごされている。掛け布団は季節に応じて重量・軽量を使い分けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の説明書をファイリングしており職員がいつでも確認できるようにしている。変更があった場合は申し送りノートを活用し、情報共有している。服薬時に薬袋と呼名で服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者一人ひとりの楽しみごとを日常生活の中で参加していただける場を設けたり、日中活動の取組みにし気分転換をできる機会を作っている。(料理、歌を唄う、塗り絵、陶芸、読書、裁縫など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	美容室や、外食など希望する方がおり、職員での対応や、家族の協力を得ながら外出を行っている。不定期だが外気浴で商店街を散歩も対応している。	春には菜の花や桜、藤の花などの花見や秋の紅葉狩りなどで近隣市町村までバスハイクで出かけ、併せておやつを楽しんでいる。家族と外出して行きつけの食堂に立ち寄り、好みのラーメンを食べて来る方もいる。また、事業所付近の商店街を散策したり、買物に出かけて楽しむ方のほか、敷地内の草取りなどを好む方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自身で財布の管理されている方もおり、買い物に出かけたり、買い物依頼がある。管理が難しい方は家族にお願いし、不足時には連携を行っている。		

事業所名 : グループホーム さくら亭 (八重)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持している方が5名おり、主に家族と連絡を取っている様子が見られる。電話をしたいと希望があればいつでも利用できる場所に電話を置き対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は利用者の作った作品や、塗り絵などを飾っており、利用者同士のコミュニケーションにも役に立っている。リビング内は季節に合わせて装飾を変え、季節感を感じていただけるよう工夫している。照明は時間帯に応じて白色系、暖色系を使い分けている。	事業所は築2年と新しく、入口には桜色に塗装された特別仕様の飲料自販機が設置され、ホール内は桜色を基調とした明るい雰囲気に整えられている。室温は床下エアコンで適温に管理され、快適に過ごすことができる。壁面などには季節感ある装飾がなされ、利用者が見た陶芸作品や塗り絵等が展示され、明るく居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下から外が眺められる場所にソファがあり、一人で過ごしたり、面会時に活用している。キッチン前のカウンターがあり、そこで過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドと、チェストは準備してあるが、できるだけ自宅で使い慣れた家具や飾りを持ち込みいただいている。自宅の設えを参考にしつつも、トイレなどの動線を考え、ベッド、家具の配置をご本人、家族に確認いただきながら設置している。	各居室にはベッドとトイレのほか、洗面化粧台、チェストが備付けられ、エアコンで快適に室温が保たれている。利用者はそれぞれに自分のテーブルや椅子、テレビなどの馴染みの家具や趣味の作品、家族写真等を持ち込み、塗り絵等の作品も飾られて居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	館内はバリアフリーとなっており、共用部には手すりが設置されている。一人ひとりの歩行状態に合わせた上履きの選定から、歩行状態に合わせて、歩行器、車いす使用の方も支障がないよう動線を確認しながら家具を設置している。		